

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.106
2025.2

TOPICS

1

那須学長がBGBSに参加し、シスター・ニヴェディター大学と大学間協定を締結



2月5、6日にインド西ベンガル州コルカタ市で開催された第8回ベンガル・グローバル・ビジネス・サミット(BGBS)に、那須保友学長が出席しました。

那須学長は、岡山大学インド感染症共同研究センター、岡山地域における持続可能な開発のための教育(ESD)や持続可能な開発目標(SDGs)に関わる活動、国連貿易開発会議(UNCTAD)との連携などについてプレゼンを行いました。

また、本サミットに合わせて、シスター・ニヴェディター大学(SNU)と大学院ヘルスシステム統合科学研究科との部局間協定を大学間協定に格上げし、サミットにおいて調印式を行いました。今後も同大との交流を発展させるとともに、文部科学省が推進するグローバル・サウスの国々との大学間交流形成の中でも注目されるインドの大学との交流を推進し、学生や教職員の交流を通じて両国の教育・研究のさらなる発展に貢献していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14018.html



TOPICS

2

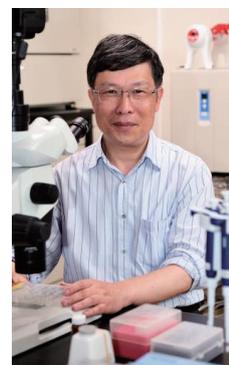
高等先鋭研究院・異分野基礎科学研究所の沈建仁所長・教授が「小林賞」の受賞者に決定

本学の高等先鋭研究院を構成する機関のひとつである異分野基礎科学研究所の沈建仁所長・教授が公益財団法人小林財団の「第6回(令和6年度)小林賞」の受賞者に決定しました。

同賞は、医学や薬学、農学、工学、理学などの生命科学に関する諸分野において、独創的な研究を行い、顕著な成果を挙げ、さらにその後も当該研究分野の発展が期待される国内の研究者を対象に授与される賞で、2019年から実施されています。

今回、沈所長は「光化学系複合体の構造生物学的研究を中心とした一連の光合成に関する研究」により受賞となりました。沈所長は、「これまでSACLAやクライオ電子顕微鏡を用いて、光化学系IIやそれとアンテナ色素タンパク質との超分子複合体の構造解析を行ってきており、それらの成果が評価されたことは大変喜ばしいことです。これまでの多くの共同研究者等に感謝するとともに、今後も一層の成果を輩出するよう努力していきます」と喜びを述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13950.html



Pick up!

岡山大学創立五十周年記念館にタイムカプセルを展示



2月13日、岡山大学創立五十周年記念館1階に、「岡山大学創立75周年記念タイムカプセルプロジェクト」にて寄せられたメッセージを封入したタイムカプセルが展示されました。

このタイムカプセルには、未来を担う学生や教職員、地域の方々からの想いが込められています。タイムカプセルは、各周年事業(80周年、90周年、100周年)の際に開封され、収納したハガキを郵送します。

展示は創立五十周年記念館1階のホワイトにて行われており、開館中は自由にご覧いただけます。ぜひ足をお運びいただき、岡山大学の歩みと未来に思いを馳せてみてください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14025.html



TOPICS

3

工学部が入学前スクーリングを開催

工学部は1月29日、2025年度学校推薦型選抜Ⅰの入学予定者を対象に入学前スクーリングを開催し、174人が参加しました。

このスクーリングは、入学予定者が円滑に大学生活をスタートできるよう、学びへの動機づけや必要な知識・技能の確認・補完を目的としており、今回で3回目の実施となります。

前半では、まず難波徳郎工学部長があいさつを行い、続いて豊田啓孝副学部長が入学前教育の趣旨を説明。さらに、今年度から新たに導入されたオンライン英語教材の紹介があり、入学予定者はスマートフォンを使ってe-learningシステムの操作方法を確認しました。

後半では、工学部の四つの系に分かれ、それぞれの系独自のプログラムを実施しました。専門分野への理解を深めるだけでなく、同じ系の入学予定者との交流の場ともなり、大学生活への期待が一層高まった様子でした。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14016.html



TOPICS

4

地域防災ワークショップ＜地域との協働型防災訓練(SDGs×防災)＞
「逃げ地図」づくりワークショップを実施

2月5日、「逃げ地図」づくりワークショップを開催し、地域の方、本学学生・教職員の約20人が参加しました。

「逃げ地図」とは、最も近い目的避難地点までの時間を色鉛筆で塗り分けた手作りの地図です。避難経路を可視化することで、地域の防災意識向上につながることが期待されます。

ワークショップでは、地域住民の方々には土地勘を生かし、具体的な知見を共有。学生たちはその意見を基に地図に反映しながら、地域住民との積極的な交流を深めました。

参加者からは、「実際に地図を作ることで、避難経路について深く考えることができた」「地域の人と話すことで、普段気づかなかった防災の視点を得られた」といった声が寄せられました。本学は今後も、地域と連携しながら、多様なステークホルダーとともに防災力向上に向けた取り組みを推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14015.html

PRESS
RELEASE

カフェインの殺虫効果を実証～飲んだ昆虫は死ぬ～

大学院環境生命自然科学研究科博士後期課程2年のShine Shane Naing大学院生と学術研究院環境生命自然科学学域の宮竹貴久教授らは、ヒロズキンバエ(ハエ目)を材料として、カフェインを砂糖水に混ぜて飲ませ、寿命・活動量・脂質の変化などへの影響を調べました。実験の結果、0.5パーセント以上のカフェインを含んだ砂糖水を飲ませると7日以内で死滅することがわかりました。カフェインはミツバチの記憶精度をあげる効果があることがわかっていましたが、殺虫効果については曖昧でした。またカフェインの過剰摂取はヒトにも有害な影響のあることがわかっていますが、昆虫にも過剰摂取は致命的であることが明らかとなり、基礎と応用でさらなる研究が必要であることがわかりました。

本研究成果は2月10日に、Springerの日本応用動物昆虫学会誌「*Applied Entomology and Zoology*」にオンライン掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1350.html



宮竹教授

